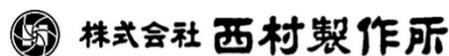


LRQA road to success

中小企業におけるISO 14001環境マネジメントシステムの取り組み  
**ISO 14001の導入で躍動する組織へと変革。**  
**さらに、大幅なコスト削減効果で黒字回復を達成。**



**COMPANY PROFILE**

**株式会社西村製作所**

**本社**

〒146-0081 東京都大田区仲池上 2-15-5

TEL: 03-3755-5511

FAX: 03-3753-1079

<http://www.nishimura-ss.com/>

1948年に創業以来、カメラなどの光学製品の絞り羽根、シャッター羽根を中心として、極薄製品の精密プレス加工を行ってきた。現在では、光学製品はもちろん、幅広い製品の精密プレス加工へと業務を拡大している。2008年には大田区から「優工場」として認定、2009年には東京都から「中小企業ものづくり人材育成大賞 奨励賞」を受賞している。（本記事は、2010年10月に取材しました。）

カメラ部品などの高精度なプレス加工で発展を続けてきた株式会社西村製作所では、環境ニーズの高まりを受けて2008年にISO 14001の認証を取得。環境対応はもちろんのこと、風通しのいい社内体制やコンプライアンス体制の強化、さらには、コスト削減による黒字回復の達成など、次々と社内改革を実現させてきたという。



常務取締役  
西田 昇 氏



総務経理部 課長  
高橋 好夫 氏



① 製造現場の環境改善へ社員が自作したという局所排気装置 ② 多能工化へ社員同士が技術を教え合う ③ 0.001ミリを追求する高精度なプレス加工部品 ④⑤ 屋上のグリーンカーテンでは多くの農作物が収穫される

### 現場の実情に合わせたシステムを構築

1948年に創業以来、カメラなどの光学製品の絞り羽根やシャッター羽根など、極薄部品の精密プレス加工企業として、光学業界で名を馳せてきた株式会社西村製作所。現在では、様々な業界へ進出、そのプレス加工の精度は高い評価を受けている。

そんな同社が、顧客メーカーからの環境マネジメントシステム認証取得の要求を受けて、ISO 14001の認証を取得したのは、2008年のこと。ISO 14001のシステム構築にあたり、現場の実情とISOの要求事項をうまくマッチさせるのに苦労したと、常務取締役 西田 昇 氏は語る。

「例えば、ISOは部門毎の管理が要求されがちですが、当社のように30数人の企業規模では部門毎で管理するよりもフロア毎で管理した方が効率的だと考えていました。様々な議論を重ねながら、当社の実情に合ったシステムを構築してきました。」

### 認証取得をきっかけとして風通しのよい組織へ

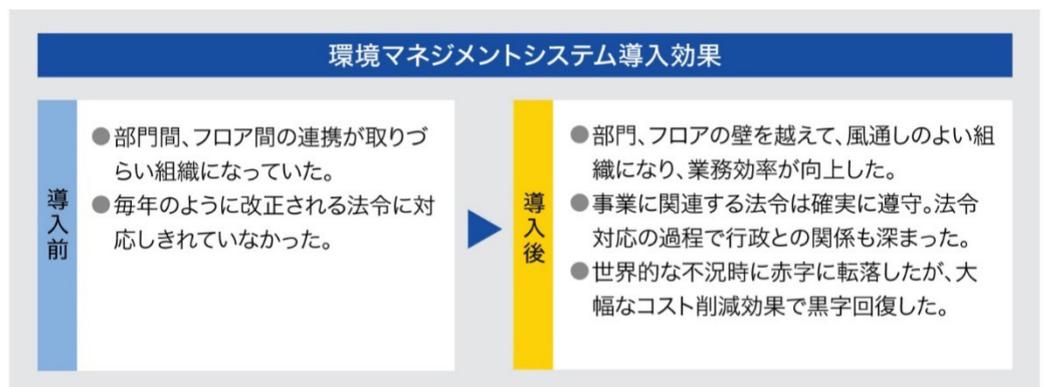
また、同社では、環境負荷やコストを削減するために、毎月の電気使用量を確認できる計測器の導入や、プルスイッチの照明への切り替えなど、様々な取り組みを行ってきた。さらに、営業車両の燃料コストを削減するために綿密なコスト削減シミュレーションを行い、ハイブリッド車を導入。製造現場の環境改善のための集塵機は、社員が局所排気装置を自作して導入コストを低減するなど、キメ細やかでメリハリのある取り組みを推し進めてきた。

こうして、同社では、2008年12月にISO 14001の認証を取得したが、その効果を西田氏は次のように語る。

「すべての従業員が同じ目標を目指して話し合いを重ねて、意思疎通を図っていくことで、自然とコミュニケーションが活性化していきました。事務部門と製造部門、役員とパート社員など、これまでコミュニケーションが取りづらかった関係でも、何でも言い合えるようになったことで、これまで以上に業務が効率的に進むようになったと感じています。」

### さらなる社内活性化へ向けて生産会議をスタート

同社では風通しのよくなった組織をさらに発展させるため、新しい取り組みを次々とスタートさせた。そのひとつが、2009年4月にスタートした部門間の連携を強めるための生産会議だ。



「生産会議では、各部門のリーダーが集まり、活発な議論が繰り広げられました。世界的な不況の影響を受け、受注に偏りが出てしまい、限られた機械、スタッフだけが忙しく、他は手が空くなど、業務状況にバラツキが出るようになった際に、生産会議で“スタッフの多能工化を推し進めれば解決できるのではないか”という意見が出たのです。多能工化は、各スタッフのスキルアップ、モチベーションアップにもつながりましたね。」(西田氏)

また、この多能工化は、業務の効率化だけではなく、万が一スタッフが病気、ケガなどで休んだ場合のリスク対策、事業継続体制の強化にもつながっている。さらに、同社では、労働安全衛生推進者や防火責任者を新たに任命するなど、環境対応だけではなく様々な分野の管理体制を整備していった。

### コンプライアンスを遵守した経営へ

昨今、環境社会の進展とともに環境関連の法令が次々と改正されるなど、専任部門がなければ、必要な法令を把握することも難しくなっている。こうした中で、同社では、ISO 14001の認証取得をきっかけとしてコンプライアンス体制を強化させていったと、総務経理部 課長 高橋 好夫氏は語る。

「ISO 14001に取り組みはじめて、様々な法令に対応していなかったことに気付かされました。一步間違えると、コンプライアンスの問題で事業停止になってしまう恐れもあります。様々なセミナーなどに

通いながら、一つひとつに確実に対応していき、今では、法改正があるとすぐに対応できるようになりました。」

各法令の届出などをするために、都庁や区役所などに通い詰めるようになると、行政側から法令以外にも様々なアドバイスをもたらえるようになったそうだ。

「例えば、昨年大田区から“優工場”の表彰をもらいましたが、これは当社のISO 14001への取り組みを知った大田区から受審のアドバイスを受けたからです。また、大田区産業振興協会からは、見たこともない金型製作の相談まで受けました。社内の若手社員に金型開発させると、特許を取得でき事業も拡大できましたね。」(西田氏)

### 2009年度に、大幅なコスト削減で黒字回復

ISO 14001導入が様々な効果をもたらせてきたが、大幅なコスト削減にもつながっていると西田氏は語る。

「車両燃料コスト、光熱コストなどをはじめとして、様々なコストを削減でき、2009年度決算では、売上げが増加していないにもかかわらず黒字回復することができました。」

ところで、同社の審査はLRQAジャパンが行ったが、高橋氏はその審査を次のように評価する。

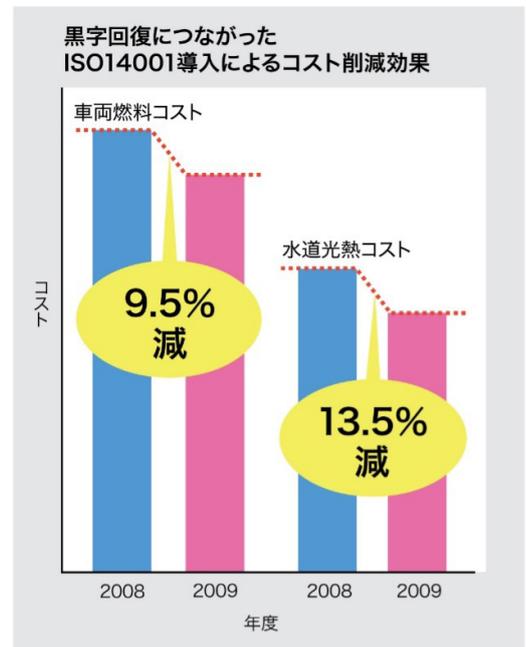
「ISOという難しいイメージがあ

りますが、LRQAジャパンの審査員はパート社員でも理解できるように説明してくれました。また、当社でやるべきことをやっていけば、それをキチンと評価していただきましたから、社員たちのモチベーションも高まりましたね。」

最後に、西田氏は今後の展望を次のように語ってくれた。

「環境対応という枠を超えて、ISO 14001の導入で社内そのものが大きく進化してきました。これを次の成長、つまり売上げ向上へとつなげていきたいと考えています。すでにその芽は出てきていますね。」

ISO 14001導入で社内を変革させてきた同社の取り組みからは、ISOはどんな規模の企業でも徹底活用でき、成果を残せる経営ツールであることを改めて感じさせてくれた。



### お問い合わせ

Email : [japan-marketing@lrqa.com](mailto:japan-marketing@lrqa.com)  
URL : <https://www.lrqa.com/jp>

### LRQAリミテッド

〒220-6010  
横浜市西区みなとみらい2-3-1 クイーンズタワーA10階

本書に示すすべての情報が正確かつ最新であるように、LRQAでは細心の注意を払っています。ただし、情報の不正確さや変更について、当社は一切の責任を負いません。

Care is taken to ensure that all information provided is accurate and up to date; however, LRQA accepts no responsibility for inaccuracies in or changes to information. For more information on LRQA, click here (<https://www.lrqa.com/entities>) © LRQA Group Limited 2021

LRQA